（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和８年４月６日

県立伊志田高等学校長

令和７年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和6年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月 10 日実施）	総合評価（３月 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	情報化やグローバル化が進展し、人々が今まで経験をしたことのない社会を生き抜く資質・能力を育成するために、自ら考える力や自ら判断する力を身に付けるとともに、それらを活用する能力の向上を図る。	①基本的・基礎的な知識・技能を身に付け、生徒が主体的に活動し、課題に取り組み、自ら考える力や自ら判断する力、表現する力を身に付け、活用・発信する能力の向上を図る。	①公開研究授業、指導と評価の計画、生徒による授業評価等を活用し、生徒が主体となって考えを深め、表現力やコミュニケーション能力の育成を目指した授業改善を継続して行う。	①主体的な学びを実現し、プレゼンテーションや発表などの活動を行い、表現力やコミュニケーション能力を向上し、自ら考える力や自ら判断する力を身に付け活用し、社会を生き抜く資質・能力を育成することができたか。	① 公開研究授業、指導と評価の計画の改善、生徒による授業評価等を活用し、組織的な授業改善を行い、教員の指導力を高めながら、生徒の表現力や思考力、社会を生き抜く資質・能力を育成する授業を展開することができた。	① 公開研究授業、指導と評価の計画の改善を引き続き行うとともに、教員間の授業見学をより積極的に行うなど、指導方法を共有し、授業改善に役立てる。生徒の多様なニーズに応じた指導を組織的に行い、充実させる。	①公開研究授業の研究協議の場で生徒が意見や感想を言う場面があることは、興味深い。また、教職員同士がお互いに授業見合う期間を設けることも、授業力向上につながる。 基礎的な知識定着の土台があってこそ、ＩＣＴ活用やグループ学習による、深い学びが成り立つ。	① 組織的な授業改善を行い、教員の指導力を高めながら、生徒の社会を生き抜く資質・能力を育成することができた。 さらに教員間で指導方法を共有し授業力向上につなげ、基礎的な知識の定着やＩＣＴ活用、グループ学習による、深い学びを実践する。	①公開研究授業、指導と評価の計画の改善を引き続き行うとともに、教職員同士がお互いに授業を見合う期間を設けるなど授業力向上につなげる取り組みを行う。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	生徒一人ひとりの個性、学校や家庭、地域で生徒を取り巻く環境を踏まえたきめ細かな生徒指導・支援を行う。	①様々な活動を通じて生徒の主体性・積極性を育成するとともに、生徒の生活習慣の確立や規範意識の向上を支援する指導を行い、安心・安全な環境の整備に取り組む。	①行事や部活動の中で、積極的に声をかけ、主体的・積極的な取り組みの手助けを行う。また、相談窓口の設置やアンケート実施を通して、生徒の困り感の早期発見に努め、支援を行う。	①行事や部活動等が生徒主体で運営出来ているか。相談窓口やアンケートを通して、生徒の困り感の早期発見に努め、チームとして対応しているか。	① かながわ子どもサポートドックの年２回実施と面談週間の設定をし、担任や学年が生徒の困り感を直接把握する機会を確保した。また、生徒主体の行事運営を推進した。ボランティア同好会の新たな創設など生徒による自主的な活動が見られた。宿志祭文化部門においてはキャッシュレス決済を導入し、円滑な会計処理を行うことができた。	① SCやSSWといった校内の相談窓口の周知徹底や、それらとの情報共有の仕方をより良いものに改善していきたい。また、生徒の主体性・積極性を育む観点から運営を行う。特に、ボランティア活動については校内での体制を整え、生徒が主体的に奉仕活動等に取組むことができる環境を整備する必要がある。	①サポートドックは、効果的な取り組みなので、この支援体制を継続が必要である。また、ボランティア活動も継続して欲しい。	① かながわ子供サポートドックを通じて、生徒の悩みや困り感を把握し、生徒支援につなげることができた。 次年度も継続して行い生徒にとっての安心安全な環境を整えていく。 生徒主体の行事運営を推進した。宿志祭では生徒発案による企画が行われたほか、ボランティア同好会の新設など生徒による自主的な活動も見られた。文化部門ではキャッシュレス決済を導入し、会計処理の合理化をすすめた。	①生徒が積極的にSCやSSWに相談できるよう、毎月ホームルームで来校日や活用方法等のアナウンスを行い周知徹底していく。 引き続き、生徒の主体性・積極性を育む観点から運営を行うとともに、特に、ボランティア活動については校内での体制を整え、他グループと連携し、持続可能な運営を構築する。
3	進路指導・支援	生涯にわたって、どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかを考えさせ、自己実現できるようにキャリア教育を充実させ、進路指導・支援を行う。	① ICT 教材や進路支援ツールを活用し、生徒一人ひとりの興味・関心や進路希望に応じたキャリア教育を展開する。	①オンライン進路調査ツールの活用による個別の進路分析をする。動画教材の活用を積極的に行う。	①生徒の進路希望の明確化や、適切な情報収集・選択行動ができたか。	①ICT ツールを計画的に運用し、到達度テスト後の課題配信を定着させた。特に1年生は全国平均超えの利用率を記録し、学習習慣化に成果が出た。3年次でもオンラインの受験レポートを個別指導に活用し、情報収集の効率化が進んだ。	① ツールの活用が「動画視聴や判定確認」という受け身の動作に留まっている。	① 高校時代に何をやってきたのか、将来どのような仕事をしたいのかを明確にさせる指導をすることが大切である。	① ICT ツールの計画的運用により課題配信が定着し、特に１年時で高い利用率と学習習慣化が見られた。また、３年時ではオンライン資料の活用により進路情報収集の効率化が進んだ。活用が動画視聴や判定確認に偏り、主体的な進路選択やキャリア	① 外部資源（模試・講師）を活用し、専門的な分析と助言を指導に取り入れる。 進路行事（文理選択→分野理解→受験対応）を体系化し、学年ごとの学びを接続する。 各種データ（模試・進路調査

	視点	４年間の目標 （令和6年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月 10 日実施）	総合評価（３月 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
									観の形成に十分つながっていない。	等）を活用し、生徒の実態に応じた指導の精度を高める。
4	地域等との協働	学校運営協議会や保護者、地域の関連機関等と連携し、学校の教育活動をさらに充実させる。	①総合的な探究の時間等で地域・外部機関・地元の企業等との連携を拡充することで、生徒の視野を広げるとともに学びを深める機会を充実させる。	①外部機関の講師による講演会等を通じて、生徒が国際社会の課題を知り、自分事として課題解決に必要なことを考えることができる。	①探究学習や講演会等を通じて、生徒が自ら課題を見つけて主体的に学ぶとともに、ICT 機材等を活用して情報収集・整理・分析の手法を身につけている。	①国際理解講演会では、生徒は講師の生い立ちを知ることで、国際社会の課題について考えるとともに、課題解決に向けて必要なことを考えることができた。	① 外部機関の講師による講演会や総合的な探究の時間での活動を通して、生徒が国際社会への理解を深めるだけではなく、自己理解を深めることができる取組を地域等の人材と取り組んでいきたい。	① バレーボール部や吹奏楽部が地域の小中学校と連携した活動をしているが、このつながりを大切にして継続して欲しい。また、日産自動車から外国人講師の派遣を受けての国際理解講演会を実施しているが、生徒にとって大切な体験となっている。	① 生徒へのアンケートを分析した結果、今年度の国際理解講演会では例年以上に多くの生徒が「自分事」として異文化への理解を深めることができた。今後も国際社会の情勢を鑑みてテーマを設定することで、生徒にとってより良い学びの機会を設ける。	①校内での国際理解教育に加えて、生徒とは異なる年代や海外につながりのある人物との交流を通して、生徒が異文化理解をより深めることができる機会を設ける。
5	学校管理 学校運営	事故・不祥事の防止に努めるとともに、生徒が安心して学習や様々な活動に取り組めるように、安全な環境を整備・維持する。	①職員がその能力を十分に発揮し、いきいきと働くために、職員同士がコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を築き、風通しの良い職場環境を維持する。全職員で意識を持ち、事故・不祥事を防止する。	①管理職が率先して、声かけを細やかに行い、風通しの良い職場環境を維持するとともに、不祥事防止研修内容を工夫し、より実効性のある研修を行う。	① 職員間の連携が図られ、また、実効性のある不祥事防止研修を実施し、事故・不祥事を防止できたか。	① 職員間のコミュニケーションがよく取られており、風通しのよい職場環境をつくることができた。また、不祥事防止職員研修を計画的に実施し、事故・不祥事を防止することができた。	① 不祥事防止職員研修に関して、若手職員を中心にして、より実効性のある研修となるよう工夫をしていく。	① 不祥事防止職員研修を計画的に実施し、風通しの良い職場環境が醸成されている。	① 職員間のコミュニケーションが良くとれていて、雰囲気の良い職場環境をつくることができた。	①不祥事防止職員研修を計画的に実施するとともに、孤立する職員がいないように、今後も継続して、年に複数回の校長面接を実施する。